

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム 大空		
所在地	北海道旭川市永山2条2丁目2番12号 (電話) 0166-46-0031		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年9月16日	評価確定日	平成21年9月28日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火構	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	月額 2,000 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木原循環器内科、高畑整形外科、博愛内科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人が運営する高齢者向け3施設の中で、旭川市内住宅街に開設された平屋建て2ユニットのグループホームです。食品の安全と旬なものの食材提供にこだわりを持ち、栄養士の助言、指導で食べる量や栄養バランス、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援が行われています。また、職員間の意思疎通、情報の共有ができる様に昨年より匿名の「職員アンケート」を実施し、「食事」や「入浴」等忌憚のない意見を言い表す機会を持ち改善の機会に活かされたり、ケアサービスの質の向上に取り組んでいます。季節毎に「大空だより」を発行して、家族や地域に職員の紹介、行事参加の様子、事業所の取り組み等認知症に対する理解や広報に取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、運営推進会議の開催について改善点が挙げられていましたが、年6回を目安に開催されています。また、火災避難訓練など実際の取り組みを見て頂きアドバイスや指導を得ながら意見交換し、ケアサービスの向上に活かされています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、新たな気づきや研修の機会として利用され改善課題の取り組みに利用されています。また、外部評価の結果については、運営推進会議で委員や家族に報告されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、年6回を目安に実施されています。主な議題は 火災避難訓練実施について 避難誘導について 通報訓練について 消火器使用の実際について 委員との質疑応答
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 親睦会での意見交換や運営推進会議でホームの活動の報告や運営についての話し合いなど行われています。また、意見箱を設置して意見や苦情を表せる機会を設けていると共にその日の職員の勤務者が分かるように共用空間に掲示し、気軽に意見や不安な点など言い表せるよう取り組んでいます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会加入で、地域の行事参加や演芸などのボランティアの受け入れなど地域との交流が積極的に行われています。また、「大空だより」を季節毎に発行して、地域や町内会に配布するなど日常生活を通じて地域との連携に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして事業所独自の理念をつくりあげ職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やモニタリングなどを通じて理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会加入で、地域の行事参加や演芸などのボランティアの受け入れなど地域との交流が積極的に行われている。また、「大空だより」を季節毎に発行して、地域や町内会に配布するなど日常生活を通じて地域との連携に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、新たな気づきや研修の機会として利用され改善課題の取り組みに利用されている。また、外部評価の結果については、運営推進会議で委員や家族に報告されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については、年6回を目安に開催されている。委員は、町内会役員、民生委員、他施設の介護支援専門員、管理者及び職員で構成され火災避難訓練など具体的な活動に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>旭川市や包括支援センター主催の研修参加を積極的に行い、サービスの質の向上に日々取り組んでいる。また、市担当者との連携の重要性については十分理解している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>親睦会の開催や「大空だより」の発行で、誕生会やクリスマスなどホーム行事参加など日常の暮らしぶりや職員の紹介、運営推進会議の内容など情報提供されている。また、金銭管理についても毎月報告されている。</p>		<p>食材へのこだわりやその日の職員の勤務状況が分かるような掲示など優れた取り組みが実践されています。今後は、その取り組みを家族や運営推進委員に積極的にアピールされることを期待します。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>親睦会や運営推進会議でホームの活動の報告や運営についての話し合いなど行われている。また、意見箱を設置して苦情を表せる機会を設けていると共にその日の職員の勤務者が分かるように共用空間に掲示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>季節毎に発行される「大空だより」で職員の顔写真付きで紹介記事が掲載されている。また、管理者は職員の資格取得やスキルアップのための取り組みの支援を積極的に行い、離職などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員を段階に応じて育成するため職員間の意思疎通、情報の共有ができる様に昨年より匿名の「職員アンケート」を実施し、「食事」や「入浴」等忌憚のない意見を言い表す機会を持ち改善の機会に活かされたり、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>特筆すべき点として、職員のアンケート実施でケアサービスの質の向上に取り組んでいる。内容も充実していて効果も出ていることが素晴らしい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会やケア研究会で管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、入居前には見学など職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、食事の準備や盛り付け、食器洗いなど一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントを通じて生活歴を把握し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されて利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見を取り入れ具体的になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別の期間毎の評価や介護支援専門員の適切な監理のもとに、担当者会議、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師が常勤しており、日々変化する利用者の状況に応じて医療連携体制が活かされている。また、本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、散歩や買い物、通院など事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護職員が常勤しており、主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、通院・往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い職員間で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや記録の扱いをしている。また、接遇の講習会参加で共通認識を持つ取り組みを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や思いを把握して持続可能な生活を送れるように支援している。また一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、盛り付けや食器洗いなど利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。		特筆すべき点として、食品の安全と旬なものの食材提供にこだわりを持ち、栄養士の助言、指導で食べる量や栄養バランス、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援が行われている。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週4回を目安に入浴を楽しめるように支援している。また、女性の入浴日を設けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、囲碁や将棋、カラオケ、洗濯物たたみ、調理の準備など「本人ができること」への生活の支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、買い物、散歩、花見や昼食会など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、センサーで外出が察知できるように取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災避難訓練、消防設備の点検が行われ対策されている。また、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう運営推進会議で働きかけを行う計画がされています。		今後は、火災時を想定した一時退避する場所の確保、災害時の緊急連絡体制の実際の運用について検討されることを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューが作成され、個別の嚥下状態などによる支援も実施されている。また、具体的な食事や水分の摂取量、栄養状態に応じた補助食品の提供など個々に応じた対応がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てで、広い廊下や居間では採光が採り入れられ明るく清潔感が漂っている。また、利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。広いリビングには、利用者が集い談笑などして家庭の雰囲気が感じられる。窓やベランダからは、畑や花壇などが眺められ生活感や季節感を感じられ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や観葉植物が飾られたり、仏壇や使い慣れた家具などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。